



クマの出没対応について

自然環境局野生生物課
鳥獣保護管理室

令和7年11月

今日のお話しながれ

● クマの生態

- ・ クマの1年の行動
- ・ クマの食べ物

● 人身事故

- ・ 人身事故の発生要因 I
- ・ 人身事故の発生要因 II

● 人身事故を防ぐための基本事項

- ・ 生徒児童向け注意事項
- ・ 学校向け注意事項
- ・ 通学路の安全確保
- ・ クマに遭遇した場合の対処

クマの生態（クマの1年の行動）

以下は北海道庁のヒグマ資料を引用

- 聴覚
聴力に優れ、音に対しては敏感。
- 視覚
昼夜を問わず行動できる視力をもち、目は決して悪くはない。ただ、あまり遠距離の物はよく見えないらしい。
- 嗅覚
敏感で、埋めた残飯などもすぐに見つけだします。



- 性格
群れを作らず単独や親子で行動。大半のヒグマは警戒心が強く、人を避けて生活しています。
- 運動能力
臨機の動作は非常に機敏。その気になれば一撃で牛を倒す事もできます。

事故多発

事故多発

冬眠・出産		冬眠明け		子グマの親離れ 繁殖期		山野のエサが少なく 農業被害を起こすことも		冬眠準備		冬眠	
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

<要注意時期>

- 冬眠明け
→ 山菜採りでの**不意の遭遇**
- 子グマの親離れ・繁殖期★
→ 若オスの放浪（**警戒心の希薄な個体**が市街地など**思わぬところに出没**）
- 晩夏～秋
→ 餌を求めて**農地や人家近くに進出**（R5秋は餌不足の影響か大量出没）
キノコ狩りなどでの**不意の遭遇**

クマの生態（クマの食べ物）

以下は北海道庁のヒグマ資料を引用

ふゆ
冬

とう みん ちゅう なに た 冬眠中（何も食べません）

おも しょく ぶつ た
主に植物を食べます

フキやセリ科（エゾニュウ、アマニュウなど）、ザセンソウ、
ミズバショウ、イラクサ等



しょく ぶつ
フキなどの植物のほか、アリや
た
ザリガニなども食べます

※利用できる食べ物が少なくなり、ヒグマによる農作物の被害が
発生しやすい時期です



はる
春

き み
木の実（ドングリ、クルミなど）や
か じつ
果実（ヤマブドウ、コクワなど）、地域
によってサケなどをたくさん食べます



なつ
夏

- ・ クマは雑食性
- ・ 季節に応じて、そのとき手に入る様々なものを食べる
- ・ 最近はシカ（死骸や幼獣）の捕食も多い

※特定の餌への強い執着を示す傾向があり、問題個体化する場合がある
“スイッチが入る”

- ・ 果樹
- ・ 生ゴミ、水産廃棄物
- ・ 動物の死骸 等

クマを引き寄せる重要な餌が無いか注意（特に生ゴミ、シカの死体）



近くに餌になるものがないか確認が必要です。

人身事故の発生要因 I

1 防御的な攻撃

(1) 突然の遭遇

- ・互いに気付かずに遭遇（山菜採り、見通しの悪い場所）
- ・市街地に侵入してクマがパニックになる
⇒ 危険を感じたクマが攻撃（大声、ランニング、自転車は恐怖）

(2) 子や食物の防衛

- ・子を守ろうとして（親子の間に入ってしまう）
⇒ 危険を感じたクマが攻撃
 - ・クマが守っている餌（シカ死体など）に接近
⇒ 餌を守ろうとして攻撃（強い執着：スイッチが入る）
- ◎ クマにとって人間がいなくなればよい
⇒ 再発の可能性は低い

人身事故の発生要因 II

2 興味本位の接近→攻撃

- ・若い個体が好奇心から接近 → 慌てて逃げる人間を追いかける
⇒ 結果的にクマが攻撃

◎ クマは最初から人間を襲うつもりはない
事故につながるかどうかは人間の対応次第



3 積極的攻撃

- ・ゴミの味を学習したクマや餌付けされたクマ

⇒ 食べ物を求め人間を攻撃

- ・防御や興味本位からの攻撃

⇒ 人間を捕食対象として学習して攻撃

◎ 執拗につきまとってくるような危険な個体
迅速・確実な駆除が必要（事故が再発）

クマは50km/hで走れるので
すぐ追いつかれる。

人身事故を防ぐための基本事項

最大の事故要因「突然の遭遇」を防ぐには
遭つたらどうするか、ではなく**遭わない**こと

- 遭わぬいためのポイント！

- 問題個体（つきまといなど）の情報確認
- 季節や環境の特性に合わせた行動（繁殖期・分散期・餌資源）
- 人間の存在を知らせる（笛、鈴、声など）
- 複数人で行動する（常に離れない）
- フィールドサインに気を配る（音・におい・足跡・食痕・糞）
- 誘因物除去
- クマが出没しにくくする環境整備

- それでも遭つてしまったら・・・

- おちついて
- ゆっくり距離をとり、その場から去る
- 襲われそうになったら**クマスプレー**

生徒児童向け注意事項

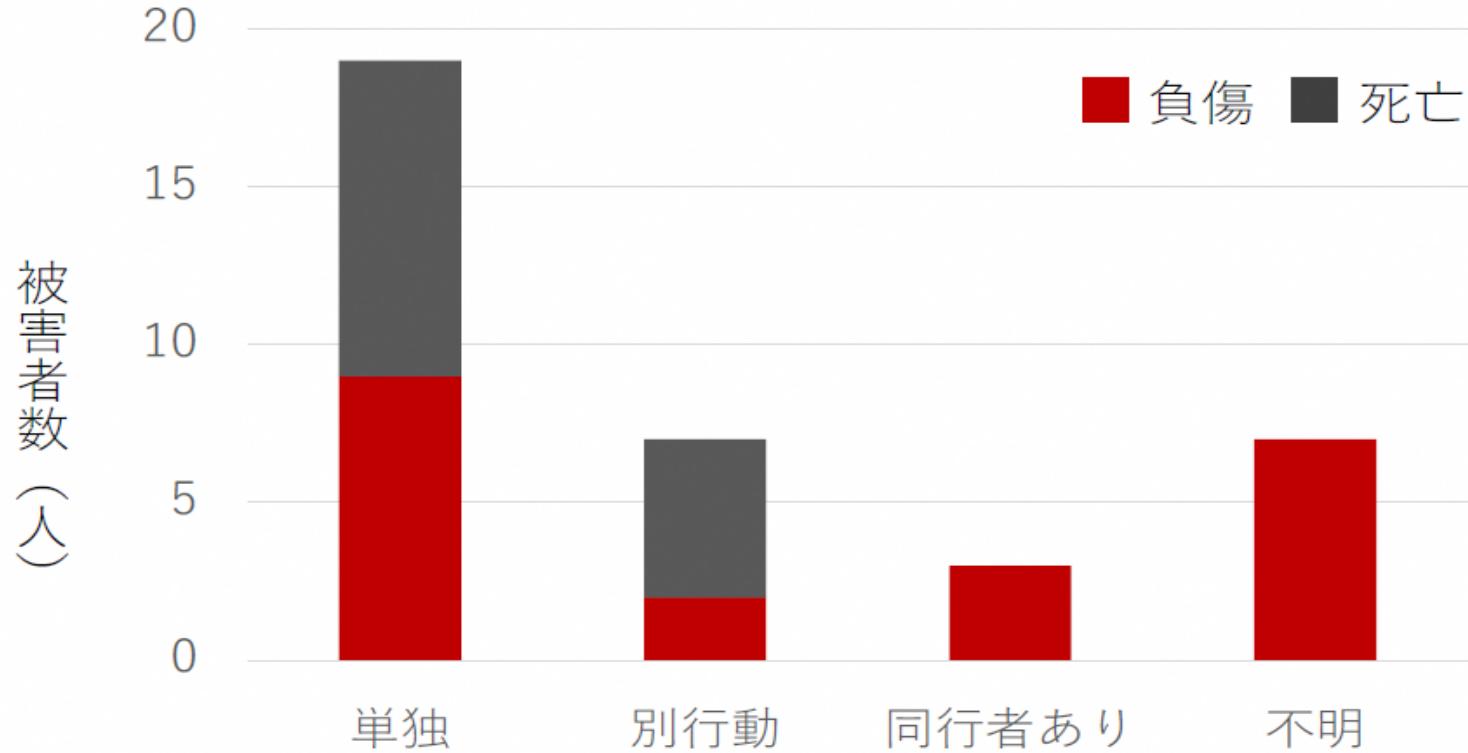
- ・遠くが見えない林や草むらの横を通るときは、おしゃべりをしたり鈴や笛を鳴らしたりして、クマに人が通ることを知らせる。
- ・自転車用のヘルメットをかぶる（頭を守る）
- ・ランドセルやリュックサックを背負う（背中を守る）
- ・クマを見ても、近づかない、大声を上げない（クマが驚く）
- ・走って逃げない（クマは逃げるものを追いかける。クマの方を見ながらゆっくり離れる）
- ・通学では、一人にならない、友達どうしてかたまる（クマが警戒する）
- ・もしクマが襲ってきたら、地面にうつぶせになって、手を首の後ろで組む（身を守る姿勢。顔と首とお腹を守る）



被害者の行動人数 1989-2017

道立総合研究機構による分析

※北海道だけのデータなのでヒグマの事例となります。



※単独行動の死傷者が多い

※上記の期間で北海道では、複数人が同所にいる場合での死亡例は無い

学校向け注意事項

- ・学校関係者も生徒児童も、何よりも「正しく知り正しく恐れる」ことが大切。
地元自治体の野生動物担当部署に相談し、正確な情報と知識を得る。
＊不確かな情報、フェイクニュースが蔓延しやすいので、冷静に情報を分析すること
- ・不意の遭遇や、市街地に侵入したクマがパニックになった際、近くにいる人を障害物として排除しようとして攻撃する（同様の理由で学校に侵入する）事態があり得ることを認識する。
- ・児童生徒に正しい知識を伝えるとともに、保護者への通信や児童生徒を通じ、家庭での正しい対応（後述の誘引物対策を含む）を促すことも必要。
- ・学校の敷地内に誘因物やクマが隠れやすい場所がないか、河川敷や森林と隣接している場合は侵入経路を想定し、遮断することを考える。
- ・特にツキノワグマは従来予想できなかった市街地内部にまで侵入する事例が増加しているため、その年の出没傾向に十分注意すること。
- ・適切な学校教育が地域のクマに対する対応力強化に大きく寄与できる。
- ・専門家の指導を受けることを推奨。

通学路の安全確保

- ・生徒児童に通学時の注意事項を理解させる。
- ・事故発生原因で最も多いのは、見通しの悪い場所での不意の遭遇で、驚いたクマが防御的な攻撃を行った状況。（捕食目的で人を襲うことは稀である。）
- ・通学路で上記の状況を防ぐことが重要。

通学路の危険な場所

- 木の茂った斜面、河川沿いなどのクマの移動経路になり得る場所
- 草が茂って見通しの悪い場所
- 林を抜ける場所
- 市町村から最新及び過去の出没場所の情報を得ておくこと

- ・クマの餌になるような植物や農作物など誘因物に注意
(餌となる放置果樹、農作物、処理の悪いゴミ捨て場、コンポスト、ペットフードの放置など) が無いかを注意し、市町村と協力して対策をとる。

クマに遭遇した場合の対処

- ・生徒児童に防御時の注意事項を理解してもらう。
- ・防御姿勢の訓練をする。
(クマの攻撃は頭部や警部などに集中し致命傷につながるので、それを避ける。最近の秋田大学医学部の研究報告でも有効性が確認されている。)
- ・クマの出没情報ある状況下で教職員が通学路の安全確保を行う際には、必要な資材（クマスプレー、ヘルメット、背中を守るリュック、可能であれば防刃チョッキ）を身に着けること。
- ・学校侵入時の対処として、盾、ネットガンなど不審者対策で準備されたものでも有効なものがある。
- ・クマ撃退スプレーの使用には所定の知識が必要。専門家の指導を受けるか、動画などで使用方法を学習することを推奨。（クマの通りそうな場所に噴霧しても無意味）
- ・クマ撃退スプレーはすぐに取り出して使えるものを選ぶ。



クマ撃退スプレー使用の講習会
※粗悪品が出回っているので注意
構えてすぐに噴射出来るものを推奨

人身事故を防ぐために 例：クマ（ヒグマ）の痕跡確認

<糞>



何を食べているのか、誘因物が何か調べるのも有効
基本的には太い俵形で、植物質のものは食べた物の形がそのまま残っていて臭くない
(食べた物の匂い)
※直径が4cm以上の場合はクマの粪の可能性
春～初夏のシカ糞に注意！(大きな塊になるが纖維が細かいことで見分けられる)

END